



子どもの成長に 関わることが楽しい

わたや
綿谷 さやか さん

当別町スキー連盟会員で、指導員として子どもたちにスキーを教える綿谷さやかさん（北栄町在住）。横浜出身の綿谷さんが、スキーを本格的に始めたのは、子育てが少し落ち着いてからということでした。

指導員を目指す！

平成10年に当別町へ移り住んできて、しばらくは子育てに忙しくしていました。子どもが小学校低学年になったころ、石狩平原スキー場のスキー学校（当別スキー連盟主催）に通わせました。子どもの練習の様子を見ているうちに、「楽しそう！私も子どもたちにスキーを教えたい」と思いました。子どもが大好きなので、スキーを教えることで子どもと関わりたいと。私は当時、ブルークボーゲン（スキー板をハの字型で滑る方法）ができる程度だったので、指導員を目指すためには、「スキー学校で学ぼう！」と考えましたが、スキー学校の生徒は子どもがほとんどだったので、大人の私はなかなか第一歩を踏み込めずにいました。その頃に出会った方がスキー連盟と関わりがあり、いろいろと話をするうちに「スキー学校に入りなよ！」と私の背中を押してくれました。スキー学校では3年ほどかけてバッチテスト1級を、その後、指導員の資格をとりました。

念願の子どもたちへの指導

指導員になる前に、アシスタントとして教えたこともあり、子どもに教えるのは今シーズンで8年ほどになります。スキー連盟会員としての指導の他、学校支援ボランティア（町教育委員会所管）にも登録しているので、町内小中学校のスキー授業でも指導しています。子どもの名前を覚えることが得意なので、生徒の名前はレッスンが始まってすぐにリフトの上などで覚えるようにしていて、名前と呼んであげると子どもたちも喜んでくれます。スキーの上達ぶりを間近で感じられることもやりがいがあり楽しいですが、数年後などに教え子がスキー場で私に声をかけてくれることもあり、その時にも成長を見られることもうれしいです。



初心者の子に後ろ向きで教える綿谷さん

スキーの魅力は？

スキーの技術を習得するのに終わりではなく、練習をすることも楽しいです。整地された斜面でじっくりと練習することが好きなので、子どもたちの指導が終わった後に練習します。コブ斜面を滑るのは難しく苦手なので、今年はコブ斜面の練習もしています。スキーをしているとすぐに足が疲れてしまうので、夏にはウォーキングや、総合体育館のトレーニングルームで足の筋トレもします。スキーは私にとって、「人生で一番楽しいこと」です。私のやりたいことを理解してくれて、思うようにやらせてくれる家族には、本当に感謝しています。

小学生から続けているバレーボール（9人制）も、チームに入り続けているという綿谷さん。自分のやりたいことに全力で向き合う姿とキラキラした素敵な笑顔がとても印象的でした。

（1月10日取材）